

バカテスOVAが 楽しみだよ本

かいたひと

- ・和泉うらら
- ・むきゆう☆
- ・武居幸士
- ・やま
- ・羽咲ねこめ（表紙）

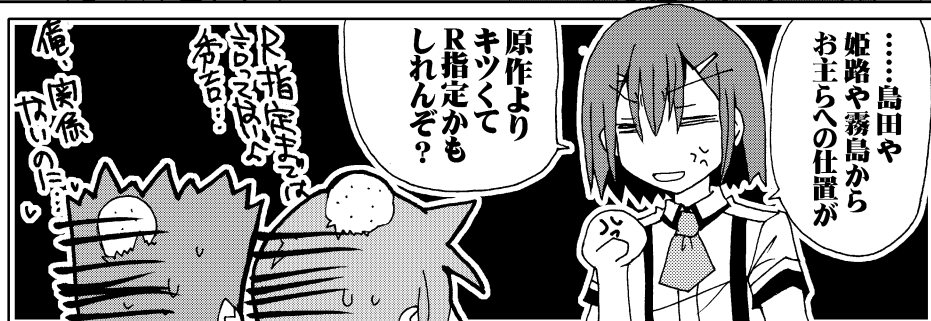
2010.12.30
COMIC MARKET 79

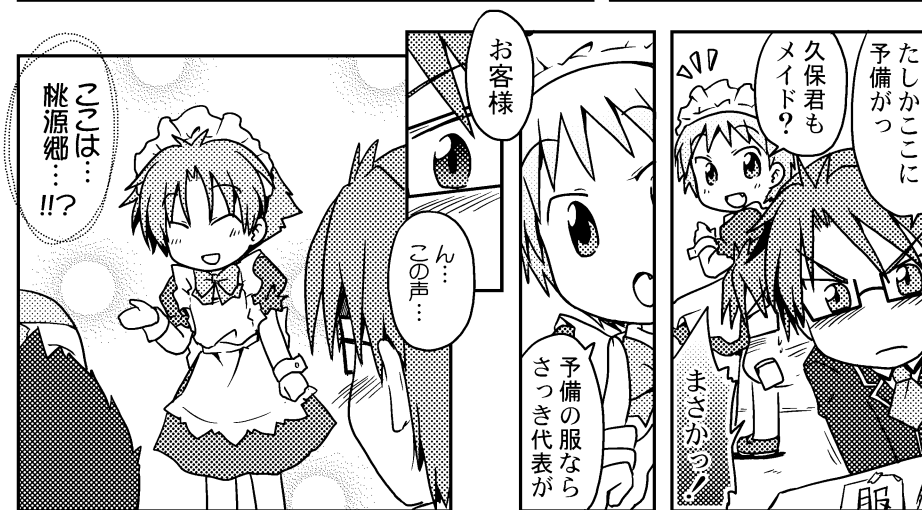
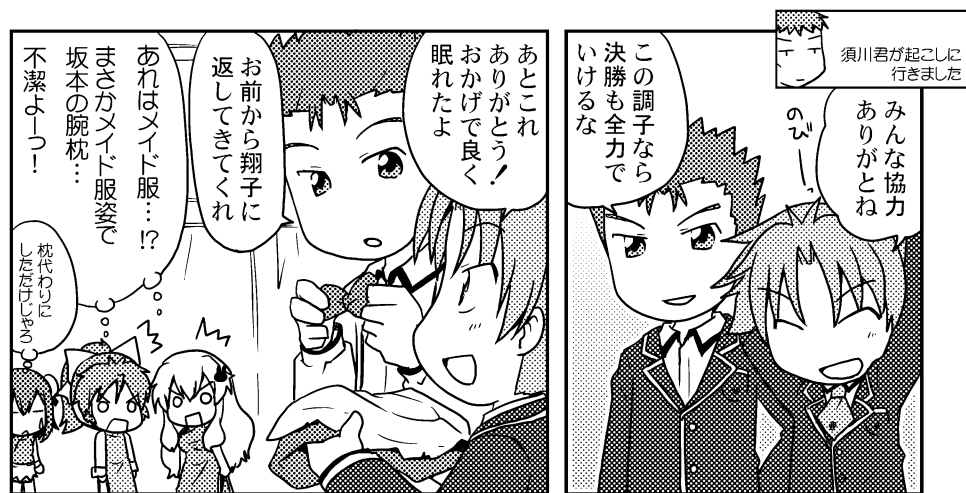
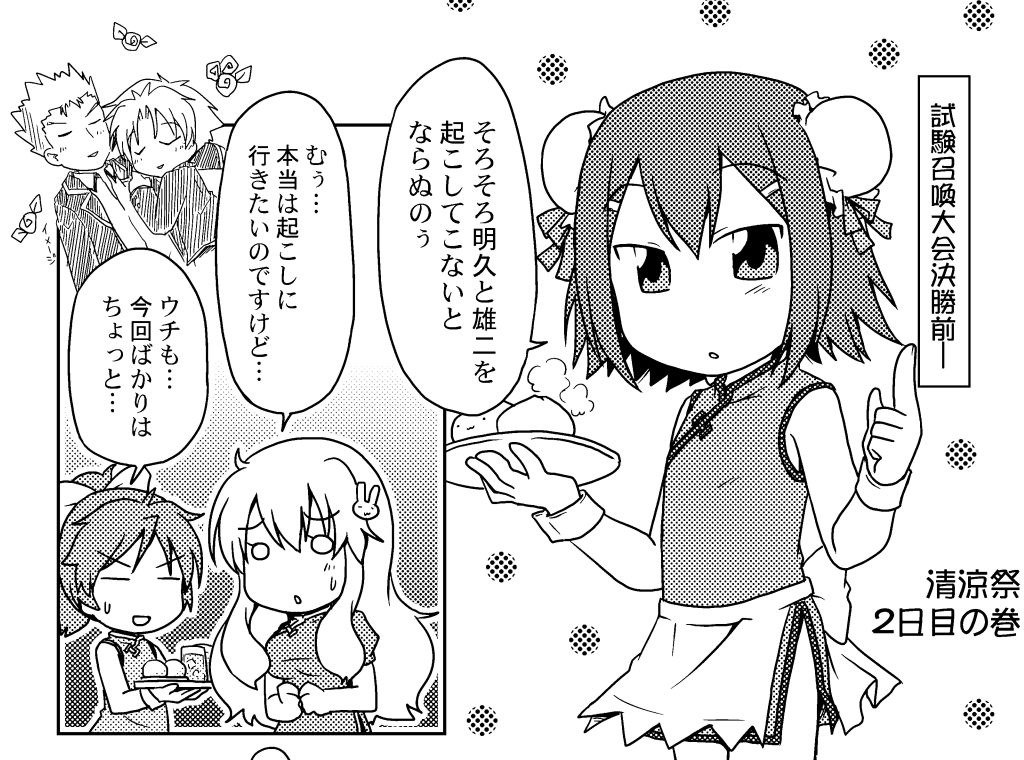


バカテス OVA 勝手に予想まんが
和泉うらら



すいません...。







お前が言うのなら やってやる。



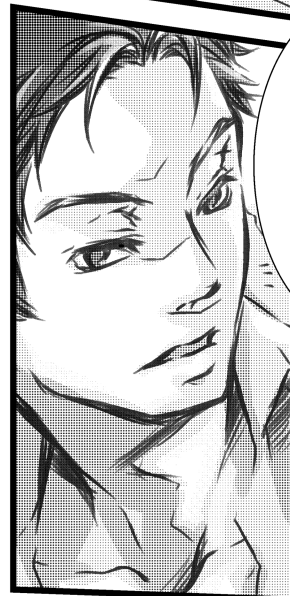
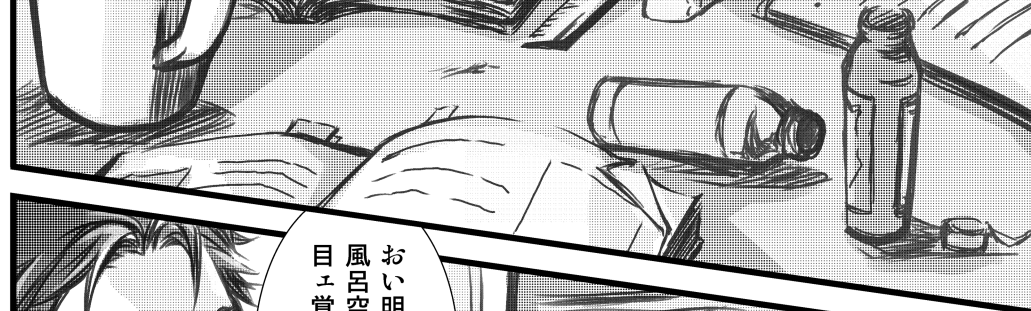
どうせお前は自らの盾を他人の矛に変えたと言って、また平然と笑うのだから。



俺が お前を



武居幸士
やさしくてひどいひと



「ストレス発散にすらならなかったぜ……」

空き教室から出てきた雄二は、少し不満そうな顔をしながらため息をついた。中を覗き込めば床に伸びている二人組。それでも、手加減はしたようだ。目立った外傷がみられないあたり、雄二の喧嘩慣れが窺える。

本人から聞いた話だが、実際中学の頃はかなり暴れていたらしい。何があつて今はこうなったのかは謎だけれど。本人もそこは言うつもりがないらしい。僕も別に問い詰めたいとは思っていないためにきちんと聞いたことはないけれど。

「早く行くぞ」

「あ、うん」

ドアを閉める。このままにしておいて大丈夫かなと少しだけ思ったが、まさか引きずっていくわけにもいかない。目が覚めたら勝手にいなくなってくれることを願って雄二の背中を追いかけた。

「またこういうのあるのかなあ」

「これで最後つてにしちやショボすぎんだろ」

「……派手ならいつてわけじゃないけどね」

どことなく不満そうな顔を隠さないままの雄二と教室へと帰る。

「……」

「金で雇われて、しかも失敗してんだ。報復するならもっと早くにきているだろうしな」

「うーん、それもそうか」

実際空き教室に入っても人気はなく、雄二は濡れたタキシードをさっさと脱いだ。シャツを落とし、前髪をかきあげる。

相変わらず無駄に整った身体をしている。腹筋は割れているようだし、骨太そうだし。僕も栄養が行き渡ったらああいふ身体になるんだろうか。一日の運動量はそんなに変わらないはずだから、あとはもう食生活の違いしか浮かばない。

「そんな熱烈な視線を送られると照れるな明久？」

「はあ!? 気持ち悪いこと言うな」

「見てただろうが」

いやそりやみていたけど。雄二の身体なんて見慣れているけれども改めてみるととても羨ましい。

僕だって、僕だって食生活さえ改善されれば……!

・ 鞆からタオルを出して（動いていると汗が出るし、色々と便利だから僕らはいつでも持ってきている）髪をがしがしとかき混ぜて水気を飛ばす。髪が降りた雄二も

そのままウェイターに精を出し、大会四回戦は雄二が一人勝ちをして、準決勝はなんとか勝ったその後。なんだかんだで雄二のストレスはたまっていたらしい。休む暇なく教室と大会を往復していれば元々暴れたり無くて燻っていた身としては発散する場所がなくて怒り出しても仕方がないのかもしれない。

今日こそ殺すと言われた目はかなりマジだったし。

タキシードのまま薬を吐かせたり冷水につけたため、服がびしょぬれになっている。制服を（雄二には内緒だが霧島さんに雄二本体を売って）取り戻し、今はF組の荷物が置いてある空き教室に向かっている最中だ。水に濡れて降りてしまった前髪のためにワックスが必要だから、ついでに着替えもそこということになった。

空き教室といえば、午前中に雄二がのした相手はもうちよっかいをかけてこないだろうか。さすがに雄二に簡単にやられてすぐに仕掛けてくるとは思わないけれど、あの後姿を見ていないので核心がもてない。まさか待ち伏せ……は、ないと思いたい。

「ねえ雄二、午前中のチンピラはもう向かってこないかな」

「大丈夫だろ、連中がそれほど頭悪くなくや」

それなりに見慣れてはいるけれど、学校でみるととても新鮮な気がする。普段はあげているから判らないけれど、それなりに前髪は長い。

「あーくそ、邪魔くせえ」

「いらついでるねー雄二」

「朝から散々だからな……くっそ、このストレス万倍返ししてやらあ……」

目が据わってるよ雄二。と、悪友を見ながら思う。

普段やる気がないけれど、案外雄二は喧嘩早い。僕をからかったりF組のメンバーをからかったりするときにはやにやと笑っているから、あまり知られてはいないけれど、手を出す早さは僕より上だったりする。沸点低いからこそ、中学の頃に色々やらかしたんだろうけれど。

制服を着て、ネクタイを首にかけた状態でワックスを取り出し適当に前髪を掻き揚げた。

「そんな適当でいいの？」

「あとは接客して帰るだけだろ、とりあえず邪魔じゃなけりやいいんだよ」

「ふーん」

まあ、お客さんの前に出る分には問題なのかな？ 雄二が納得しているのなら僕が口を出すことじゃない。

writer (ページ順)

羽咲ねこめ (表紙イラスト)

<http://schalf.web.fc2.com/>

和泉うらら

<http://blue-black.sakura.ne.jp/blue/>

むきゆう☆

<http://www.mukyu.com/>

武居幸士

<http://schwarztier.web.fc2.com/>

やま

<http://noise.daa.jp/noise/>

首謀者：やま & 和泉うらら

発行日：2010/12/30

何か書くつもりであけておいたのに
結局何も描くよゆうがありませんでした
おらってやってください b ヲ和泉うらら

悪友のげんこつこっかん最高！

「じゃあいこっか」
「ところで明久、さっき俺を見て何考えていたんだ？」
「筋肉羨ましいなあって何言わせるんだよ！」
「さーっと少し前の話題を蒸し返すな普通に答えちゃったじゃないか！」
「ほー、あんな熱烈に見てるから違うこと考えてんのかと思っただぜ」
「違うことってなに」
「さあな？」
「なんだこいつすごいムカつく。にやにやと笑うその顔は僕をからかう気満々だ。大人しくからかわれてたまるか！」
「残念ながら雄二が思うようなことは何も考えてないよ」
「じゃあ明久は俺が何を考えてると思ったんだよ」
「え、そりや……って雄二！」
「また素直に答えるところだったじゃないか！ 腹かかえて笑うなこの馬鹿！ 僕でストレス発散するな！」
「いつまでも笑いがおさまらない雄二にムカついて、一発蹴りをかましてやった。」

Writer by やま